

富丘支部



高齢化社会と今後の 自治会活動のあり方について

青木平区の活動紹介と提言



青木平区

平成30年 8月 8日

青木平区 区長

武井信夫

こんにちは！ この度は、このような機会を頂きまして、誠にありがとうございます。

また、多くの先輩方を前にし、このような高いところから話をさせていただきますこと、切にご容赦願います。

さて、本日のテーマは「高齢化社会と自治会活動のあり方について」ということで青木平区の活動を事例を紹介させて頂き、さらに行政との連携について私なりの考えを述べさせていただきます。

まず、本題に入る前に、少し時間を頂き自己紹介をさせていただきます。

改めまして、青木平区の区長を務めております『武井』と申します。

今年で区長3年目となります。

区長1年間は、右も左も分からず年間の行事をこなす事で精一杯でした。

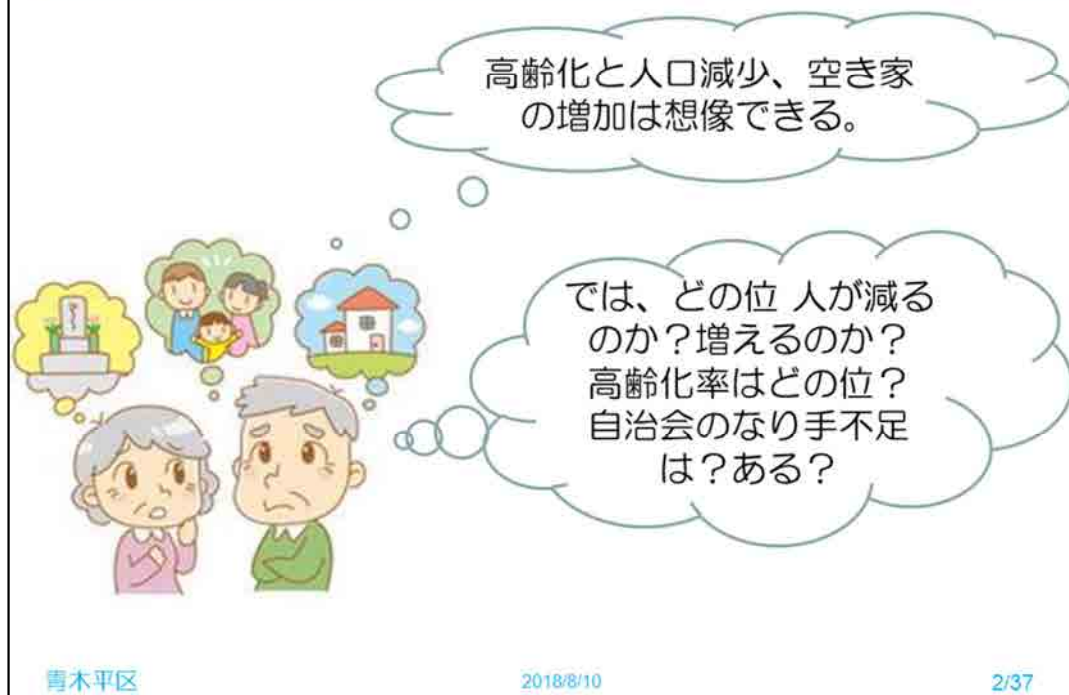
2年目になりましてようやく落ち着き『何をすべきか？』を考えるようになり青木平の将来について見つめてみました。

そして、青木平が将来どのようなようになるのかを具体的な数字として表してみようと試みました。

本日は、その結果をみなさんの前に披露することとなります。

では、早速、発表に移らせて頂きます。

あなたの地区は、将来はどうなる？



いまや日本国中『高齢化と人口減少』が進行しています。 このことは既にみなさんご存じの通りです。

そして、このことは新聞、テレビで取り上げられ、将来、減少する労働力の確保についてどのようにするのかなど、学者を含めて議論されているところです。

では、富士宮市をはじめ、いま住んでいるわたし達の地域がどのようになるのでしょうか？

年寄りが増え、人口も減るだろう？ また、空き家も増えるかもしれない？
自治会の運営はどうなるのだろう？ と、みなさんは漠然とは感じていることと思います。

そこで、具体的にどのようになるのかを数字で表しイメージして見ることにしました。

まずはじめに、富士宮市の将来について調べてみました。



平成27年（2015年）　今から3年前に発行された富士宮市の広報誌です。

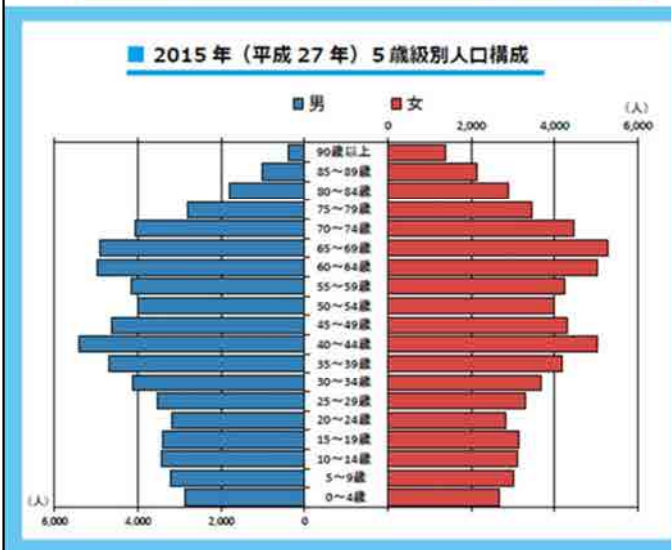
将来目指すべき富士宮市の方角性が示されています。

参考
資料

高齢化と人口減少は全国共通課題

富士宮市人口ビジョン（概要版）

富士宮市の総人口の推移



青木平区

2018/8/10

2010年（平成22年）
135,764人

2060年（平成72年）
86,447人

50年間の人口減少
49,317人
推計減少率 36%

年間平均減少人数
986.3人

20年後の推計減少人数
19,727人

4/37

このグラフは、富士宮市の人口構成図です。2015年の人口構成図で3年前の状況を表しています。

富士宮市が発行した「富士宮市人口ビジョン」の冊子から引用いたしました

この資料では、2010年から2060年の50年間の富士宮市の人口減少を予測しています。

この予測では135,764人の人口が50年後には、86,447人となり、推計減少率は36%にも達します。50年間で約50,000人も人口が減少してしまう可能性を含んでいることを示しています。

この、5万人という人数は、国政調査の平成27年10月1日現在のデータで、富士宮市における仕事に就いている人の総数（55,000人）に匹敵します。

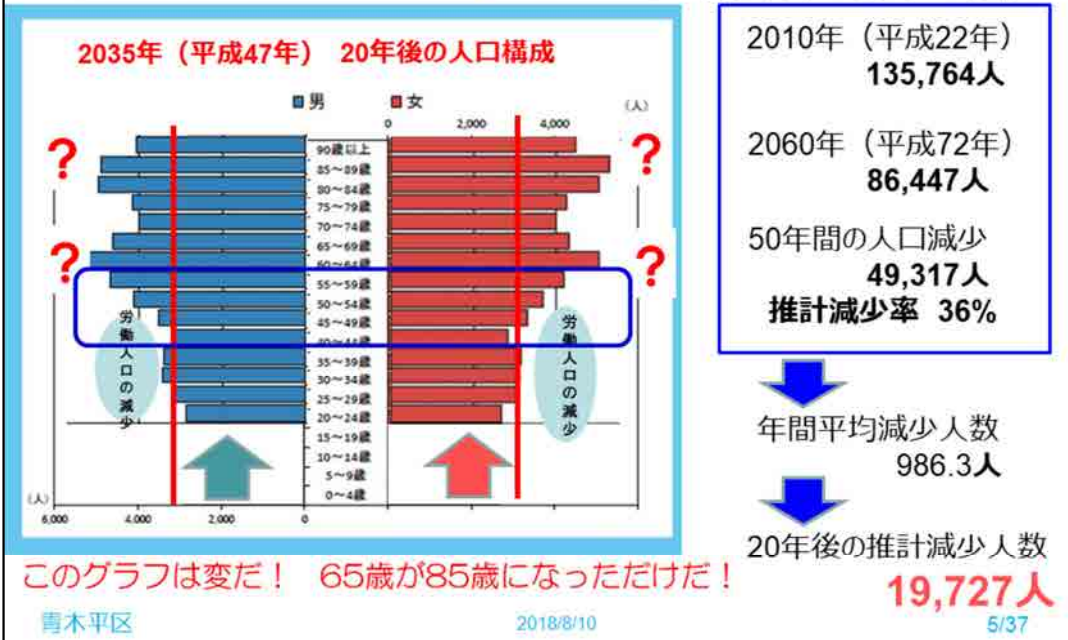
つまり、50年後は、今の労働力の大半が失われるかもしれないことを示しているのです。

参考
資料

高齢化と人口減少は全国共通課題

富士宮市人口ビジョン（概要版）

富士宮市の総人口の推移



「50年後では、あまりにも遠すぎて実感できない」と感じている方も多いかと思います。

では、20年後はどうなるのでしょうか？ わたしは現在67歳ですので、20年後は、生きていれば87歳になっています。

このグラフを見てください。 どうですか？ 何かおかしいでしょう？

そうです。このグラフは単純に今の年齢に20歳加えたグラフです。こんなグラフはあり得ませんね。

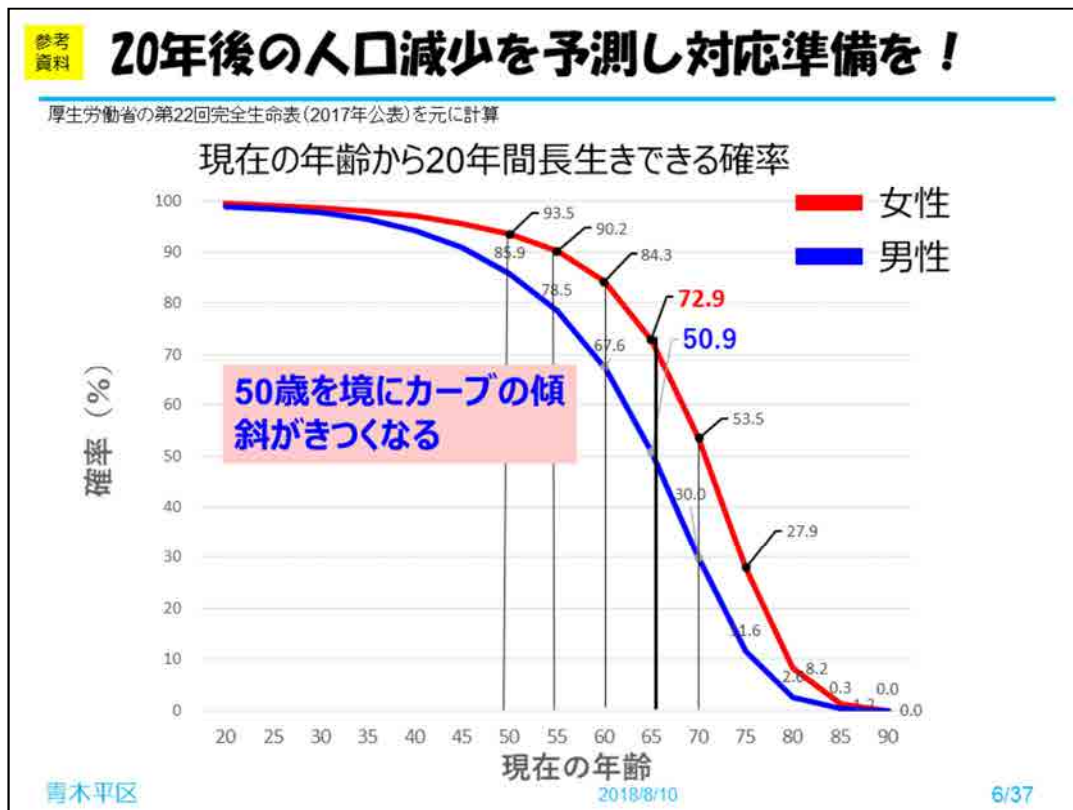
そして、50年後の人口減少は約50,000人と予測され、この数字から20年後を人数を単純に割り出すと19,727人と約20,000人の減少となります。

これではあまりにも単純過ぎますよね！

さらに、人口減少とは別に20年後には富士宮市内の労働人口の減少が確実に起こることがこのグラフから見て取ることができます。

定年を迎え退職する人が増加し、働き手の減少で深刻な求人難が発生するかもしれません。市内の中小企業の経営に大きな影響を与えかねません。

では、どうしたら20年後の状態を根拠をもって予測できるのでしょうか？



そこで、20年後を予測するために厚生労働省が発表している「第22回完全生命表(2017年公表)」を利用してみました。

このデータは、5年毎の国勢調査のデータを元に作成されています。

このデータを利用し、今から20年間長生きできる確率を求めると、このようなグラフになります。

男女差がだいぶあるのが判ると思います。やはり、女性の方が長生きできるのですね。

また、男性は50歳を超えたあたりからグラフのカーブの傾斜がきつくなってきています。

このグラフでは、いま現在65歳の方が、今から20年間長生きできる確率は50.9%となってしまいます。

しかし、これはあくまでも統計的な確率ですから必ずこのようになるとは限りません。

富士宮市の平成30年1月1日付けの年齢別人口データを元に20年間長生きできる確率を当てはめてみますと、次のようになります。

参考
資料

20年後に向け 自治会の担い手の育成は必須

人口減少数：30,848人－新生児誕生：19,400人＝**10,848人（8.4%）**

平均減少人数／年：1,543人 新生児誕生／年：970人と推定

男性 **15,940人減少 25%**

女性 **14,908人減少 23%**

（男性）20年後の各年齢人口の状態

（女性）20年後の各年齢人口の状態



向かって左に表示されグラフは男性です。そして、青色に色づけられた棒が20年間長生きできる人となります。

生き死にの話となり、申し訳ありません。20年間で男性は15,940人減少し男女を合わせると約30,000人の減少となってしまいます。

しかし、生まれてくる子供もいるので1年間で970人誕生すると仮定すると20年間で約20,000人の新生児誕生となります。

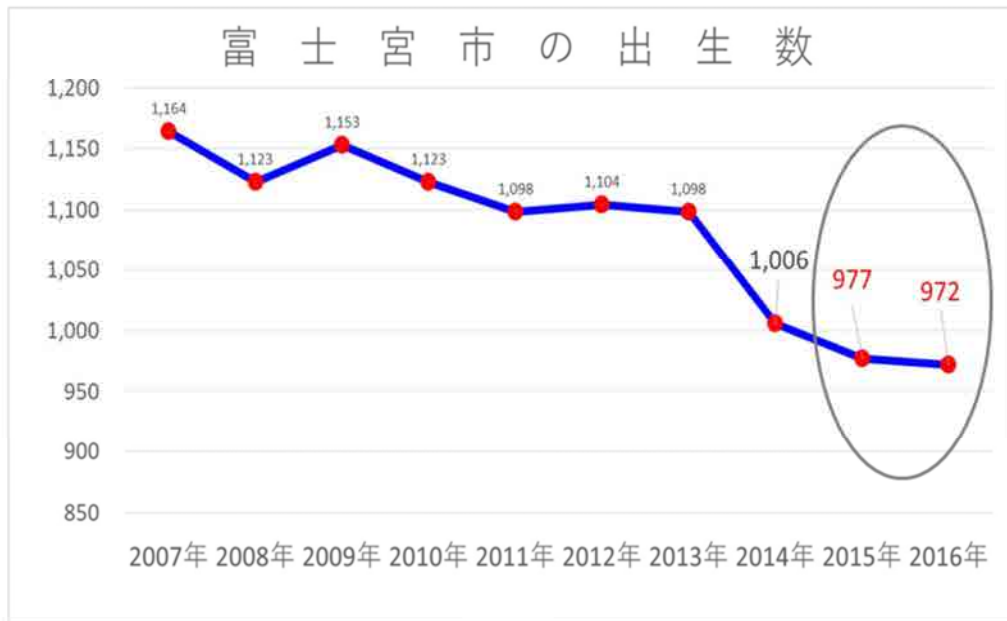
実質的な20年後の富士宮市の人口減少は約10,000人と予測することができます。

50年後の人口減少の数値から単純予測した20年後の人口減少数は2万人です。現状の年齢別人口データと出生数から予測した数値は約1万人の人口減少に留まることとなります。

未来を正確に予測することは誰にもできません。素人の計算ですが、一つの可能性として見ることはできると思います。

参考
資料

年々減少する出生数 1,000人下回る



青木平区

8/37

参考資料となりますが、富士宮市が発表している統計データの中に出生数が公表されていたのでこれをグラフにしてみました。

2015年、3年前となりますが年間の出生数がはじめて1,000人を割ってしまいました。

このまま出生数が減少することが無いよう祈るばかりです。

高齢化と人口減少がもたらす課題

富士宮市の人口ビジョンより

- 労働者や消費者の減少による地域経済の衰退
- 社会保障費を負担する現役世代の減少による社会保障制度への影響

- 地域コミュニティの担い手の不足による地域への影響



- 税収の減少により行政サービスや公共建築物などの維持管理・更新が困難など

青木平区

2018/8/10

9/37

これまで富士宮市の人口減少について、私見を交えて説明をしてきました。

市も、高齢化と人口減少がもたらす諸課題をあげています。

一つ目は、地域経済の衰退、二つ目は社会保障費の増大とその影響、三つ目に『地域コミュニティの担い手の不足による地域への影響』をあげ、自治会組織への影響を課題にあげています。

四つ目に税収減少による行政サービスの低下を示唆しています。

今回のわたしの発表のテーマは、『地域コミュニティの担い手の不足による地域への影響』です。

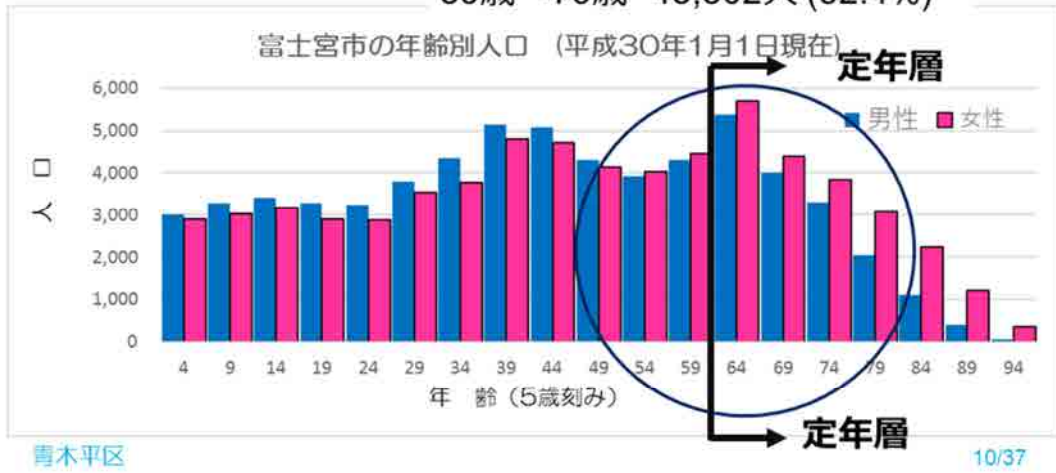
高齢化と人口減少が、自治会組織にどのような影響をおよぼすのかをイメージし、いまから準備し、対策を立てていくことについて話を進めていきます

富士宮市の行政サービスを担う年齢層

自治会活動を支える年齢層

年齢	4	9	14	19	24	29	34	39	44	49	54	59	64	69	74	79	84	89	94	99	104	109	合計
男性	2,602	3,016	3,290	3,406	3,262	3,242	3,790	4,350	5,145	5,068	4,300	3,925	4,302	5,383	4,002	3,295	2,037	1,110	402	67	12	1	66,027
女性	2,473	2,907	3,038	3,168	2,888	2,876	3,538	3,764	4,806	4,705	4,130	4,024	4,450	5,702	4,381	3,828	3,083	2,235	1,219	351	58	1	67,614
合計	5,075	5,923	6,328	6,574	6,171	6,118	7,328	8,114	9,951	9,773	8,430	7,949	8,752	11,085	8,383	7,123	5,100	3,345	1,621	418	70	2	133,641

59歳～79歳 43,302人 (32.4%)



いま、ここにお集まりのみなさんのお年をお聞かせください。

40代の方？ 50代の方？ 60代の方？ 70代の方？ 80代の方？

やはり、60代、70代の方が大半ですね？

そこで、60代、70代の方にお尋ねします。 自営業以外で、週三日以上お勤めをされている方は手を上げてください。

殆どの方が、定年を迎え仕事を離れている状態で、区長として自治会活動を行っている訳ですね。

行政サービスの担い手である区長の仕事は、定年を迎えた人のお仕事となっています。

わたしの地区は、将来はどうなる？



将来を予測し、今から準備、対策を！

青木平区

2018/8/10

11/37

ここからは、わたしたちの地区の将来について考えてみましょう。

各地区ごとに20年後の地域の姿を描いてみる

- 『過疎化』の不安はないのか？
- 空き家が増える 放置耕作地が増えやしないか？
- 二人もしくは一人住まいの高齢者世帯がどの程度ふえるのか？
- 移動手段は『車』 運転への不安 高齢者ドライバー
- 病気への不安 歳を取れば 一つ二つは健康問題を抱える
- 自治会役員のなり手不足 役員の高齢化進行？
- 人口減少による自治会加入者の減少は？

青木平区

12/37

みなさんは、ここに上げた項目についてある程度予測していると思います。

わたしも、青木平の区長になり漠然とは考えていましたが、具体的なイメージとして捉えてはいませんでした。

ちょうど2年前に、班の再編成を行いました。班を構成する世帯数の格差が2.8倍になってしまい「役の持ち回り」に大きなアンバランスが生じてしまったことから班の再編成が必要となってしまいました。

班の数を12班から10班へ再編成した訳です。班の区割りも変更しました。この班の再編に伴い、会員の住所、生年月日等を再調査しました。

これらのデータをエクセル表にまとめ世帯主の平均年齢を計算したところ62.5歳という結果がでました。

この結果から、この先、青木平はどうなるのか？ 不安が一気に高まった訳です。



青木平区の活動紹介

年に一度、区長を交えた班会議を開催



青木平区

《 青 木 平 区 》

町内数：2町内

班 数 ： 10 班

世帯主の平均年齢62.5歳という結果を踏まえ、青木平の将来 20年後の姿を予測し、今から準備し、対策を立てていけば最悪は免れると考え、行動を起こしました。

ここからは青木平の取り組み、および考え方をみなさんにご紹介させていただきます。

なお、この資料は、区長を交えた班会議を開催し、説明会で使用した資料となります。



青木平の位置を地図で表しています。

今さら説明することは無いと思いますが、青木平区は富士宮の市街地から離れた、小高い山の中に有り、チョット隠れ里的な雰囲気を持つ住宅地です。

青木平区の特徴について

- ◆ **歴史が浅い土地！**
宅地造成され、入居してまだ約36～7年
 - ・ 近所付き合いも少なく地元意識が薄い。勤めを持っているので近所との付き合いが少ない。
- ◆ **自然を求め、都会から転居された方が比較的多い** ・ 人との関わりを避ける傾向も・・・
- ◆ **100%戸建て住宅地**で隣りの家との距離が近い
 - ・ オシャレな住宅も多く、別荘地の印象が強い。
- ◆ **丘陵地**のため、坂と階段がある住宅が多い
 - ・ 歳を重ね、足腰が弱ってくると結構きつい。（健康維持には最適運動）
- ◆ 富士宮市街地から離れた**集落的住宅地**
 - ・ 将来、高齢化が進み新たな入居者が減少すると、過疎地となる危険を含む

青木平区

15/37

青木平区の特徴について5点ほどにまとめてみました。

一つ目は、『歴史が浅い土地』であること。

二つ目は・・・

青木平の最大の特徴は、いま青木平に住んでいる住人の全てが、他の地域から移り住んだ転入者であり、移住者であるという点です。

歴史ある富丘地区のみなさんや他の地区のみなさんとはこの点が異なり、『地元感・故郷』という感覚が極めて薄い地域であると考えています。

青木平で暮らし、生活をしていても、『生まれ故郷、故郷』は別にあるのです。そのため、住民間の付き合いも薄く、ごく限られた範囲でのコミュニケーションしか取れないのが現実となっています。

青木平区自治会加入の現状について

富士宮市行政区別人口世帯統計表 平成30年1月1日現在

行政区名	人口	男	女	世帯数	1世帯 人数	自治会 加入率
宮 原	4,123	2,088	2,035	1,783	2.3	
外 神	2,240	1,129	1,111	890	2.5	
淀 師	6,336	3,140	3,196	2,538	2.5	
淀 橋	2,547	1,219	1,328	1,072	2.4	
大 中 里	4,784	2,348	2,436	2,038	2.3	
青 木	1,855	928	927	679	2.7	
青木平	861	411	450	389	2.2	64.0
富丘7区合計	22,746	11,263	11,483	9,389	2.4	

加入数

249

青木平区の自治会加入率は **64.0%**

H30年1月 *1世帯当りの平均家族数は **2.2人** (青木平人口 **861** ÷ 世帯数 389) **人口16人減**

H29年4月 *1世帯当りの平均家族数は **2.3人** (青木平人口 **877** ÷ 世帯数 389)

青木平区

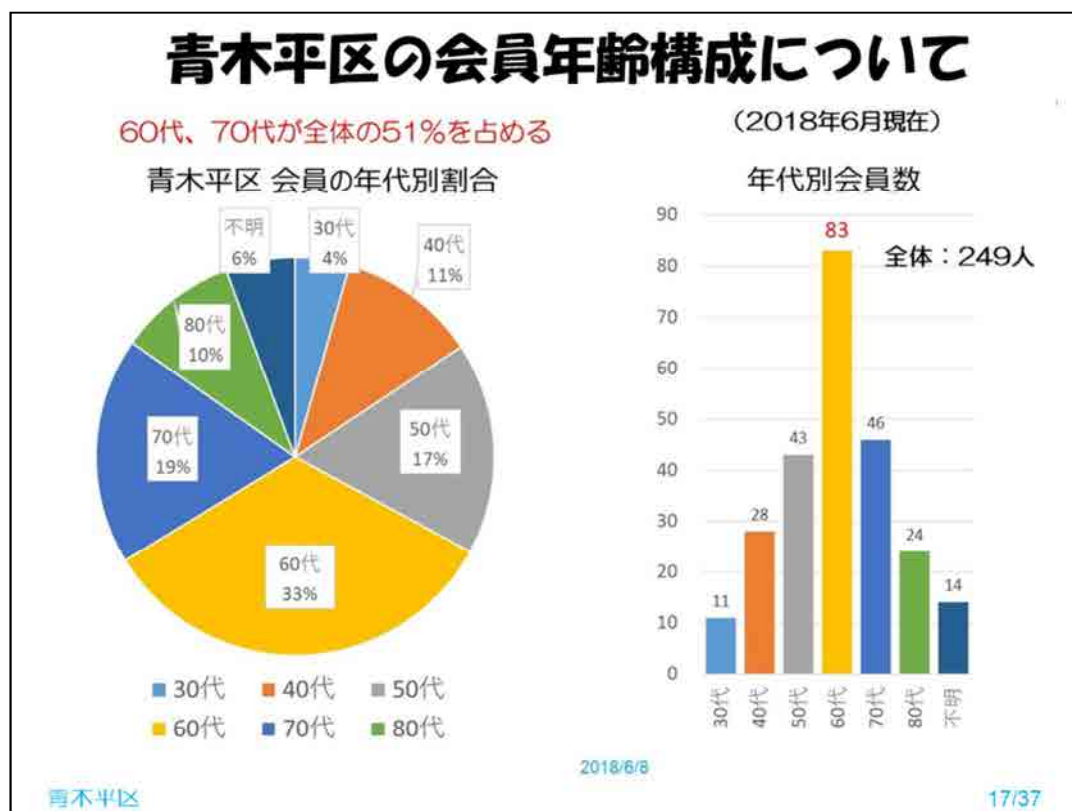
16/37

現在、青木平の全世帯数は389世帯となっています。 区に加入している世帯は249世帯で、加入率は64.0%となっています。

富丘7区では、2番目の低さとなっています。

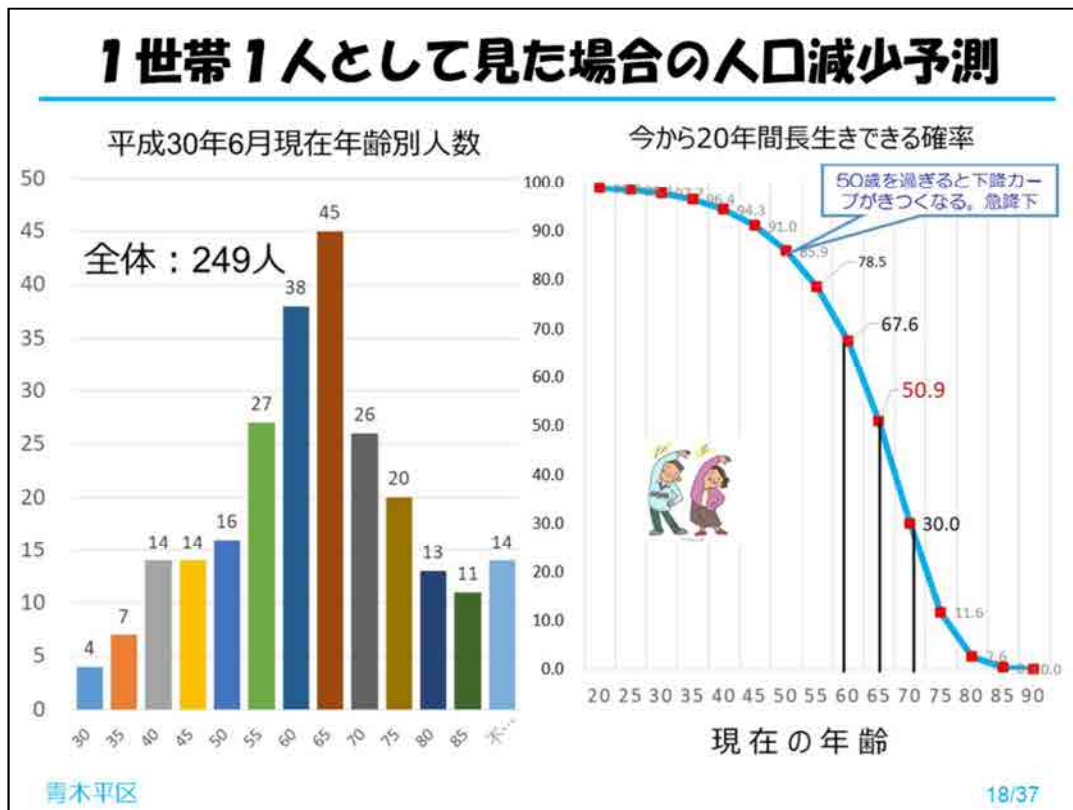
また、平成29年の人口と平成30年の人口を比べると世帯数は同じ389世帯であるのに人口が16人減少しています。

亡くなられた方や、就職等で子供が転居したことを示しています。そして、1世帯当りの平均家族数は2.2人となり、1人暮らしの方や、2人暮らしの世帯が多い事がこの数字から推測する事ができます。



続いて、世帯主を年齢別に表してみると、圧倒的に60代が多い事が判ります。

年齢構成では、60代、70代が51%と全体の半数を占め、80代を加えると全体の3分の2を占める状態にあることが判ります。



更に年齢を5歳刻みで表して見ると、向かって左のグラフになります。
65歳が45人と一番多い世代となります。

個人情報保護法の関係上、家族構成及び家族の年齢構成まで把握できていません。

唯一、正確に分かる249軒の世帯主の年齢を元に調査を行いました

ここでも、前の資料で説明した「第22回完全生命表（2017年公表）」を使い
20年後の青木平の姿を予測して見ました。

20年後 人口減少率 42%の可能性あり！

20年後の青木平の人口減少



20年後の結果には愕然とします。

20年間で104人の減少です。減少率は1世帯1人として見た場合、現状の249人の内、104人の減少となり減少率は42%となります。

最悪、人口減少はもっと加速する可能性があります。高齢になり足腰が弱くなれば、他の地域に住む娘さんや、息子さんの所へ転居してしまうケースも増えてくることも想定できます。

このまま、手をこまねいて何もせず、対策を取らなければ、間違いなく、将来は、過疎の住宅地となってしまう可能性を含んでいます。

このような人口減少を食い止めるには、20年間、毎年6人の入居が必要となるのです。

15年後に高齢化のピークがやってくる

計算式

高齢者率(%) = 65歳以上の世帯主 ÷ 自治会加入世帯数 × 100

自治会員 高齢化率 (対象：世帯主)	自治会加入世帯数	平均年齢 (世帯主)	高齢化率=46.2% 後期高齢化率=17.6%
	249	62.9	65歳以上：115名

高齢化の推移



世帯数を249に固定（母数）

65歳以下の方が入居し、母数259の維持が前提

最高年齢を93歳に設定

高齢化率のピークは15年後
以降、減少していく
30年後の高齢化率は44.2% 但
し、90歳～93歳 32人を含む

高齢化率についても調べてみました。

現在、249人を対象とした青木平区の高齢化率は46.2%です。

富士宮市全体のデータから見ても青木平区の高齢化率は36.3%とダントツの状態です。

平成29年の富士宮市全体の高齢化率は27.7%でした。

そうして、15年後には青木平の高齢化率はピークを迎え、68%と成り。以降、高齢化率は減少していきます。

20年後 こんな青木平にしていなるものか！

空き家を放置すると雑草が埋め尽くす。



自治会活動が無くなれば
ご覧のありさま
市が行う年1回の草刈り
では間に合わない



※ 写真はインターネット 無料イラストサイトより取得

青木平区



21/37

このような人口減少が起きると、どのような変化、影響が出るのでしょうか

自然豊かな青木平。そして、自然の力は強力です。

人の手が加わらないと、青木平の景観は大きく影響されてしまいます。

空き家がどんどん増える事は容易に想像できます。

空き家が増えれば、この資料の様に、自然の力に埋もれ、雑草だらけの青木平の姿を目にすることとなります。

また、自治会活動の活力も失われてしまう可能性をも含んでいます。

青木平区の将来ビジョン

= 20年後もこんな青木平区であって欲しい =

自治会としての目指すべき方向性と活動指針

- ◆ 自然豊かで『きれいな住宅地！』住んでみたい地区でありたい。



- ◆ 若者が楽しく安心して暮らせる地区でありたい。



- ◆ 高齢者が生きいき、楽しく暮らせる地区でありたい。



- ◆ 助け合い、協力しあえる優しい人達の地区でありたい。



青木平区

22/37

そこで、将来、さびれた青木平にならぬよう、今から準備し、活動していくことが、極めて大切なことであることに気がつきます。

青木平で生まれた子供たちにとっては、いつになっても青木平は故郷です。

子供たちに、さびれた青木平を見せたくない。

このような気持ちから、将来に向け活動して行くには「こうなって欲しいと思う青木平区の将来像」を区民共通のものとし、描く必要があります。

そこで「青木平区の将来ビジョン」を掲げました。

将来ビジョンを掲げることにより、区長が交代しても目指すべき方向性が継承され、活動が継続されることとなります。

毎年、恒例として行われる行事の位置づけも意味を持つこととなり、区民のコミュニケーション作りの場としてさらなる活用場として変化していきます。

つまり、ビジョンを描くことで、目標が定まり、目標があれば具体的な活動が生まれてきます。

何のための活動なのか？ なぜその活動が必要なのか？ が、明確になり自治会そのものの役割が大きく変化してくると思います。

私たち一人ひとりが今すぐできること！

◆生活・居住環境の維持、改善

- 1, 一声、声かけ行動の推進 小さなお節介行動の推進。
- 2, 『きれいな青木平を守る』 草刈ボランティアへの参加。
- 3, 『公園をより美しく』 公園の清掃を心がける。
- 4, 自宅の周りを綺麗にしましょう。
- 5, 生活モラルの一層の向上に努めましょう。

◆コミュニケーションを活発に！

- ① 区民館をもっと有効利用しましょう。 開放型コミュニティ
- ② 自治会が主催する行事への参加。夏祭り、一斉清掃、防災訓練、「子供と楽しく遊ぶ日」の創設など

青木平区

23/37

『青木平区の将来ビジョン』の実現に向けた活動は、区民一人一人ができる範囲で行動し、実行することからはじまります。

『一声、声掛け活動は、『お元気ですか？』からはじまり、『手伝いましょうか？』へと進化、発展していくことが大切です。

そのためには重要ことは意識改革であり、風土づくりが必要となります。

人は誰しも「人の世話にはなりたくない。人に迷惑を掛けたくない。」との思いを強く持っていると思います。

この気持ちが強すぎると、折角差し伸べた人の好意も素直に受けることができなくなってしまう。

『少しくらい、人の世話になっても良いんだ』、『少しくらい、人を頼っても良いんだ』との思いに変えていく必要があります。

人の気持ちの変化は一朝一夕には生まれません。時間がかかるのです。

だから、今から少しずつ気持ちをならしていく必要があると考えています。

また、青木平の公園を「富士宮で一番きれいな公園」にしたいと考えています。

まだ、具体的な活動には至らず、道ははるか彼方です。

二宮地区の道路際の花壇の手入れは素晴らしいと感じています。

どのようにしたら、このような活動が生まれるのか、教えて頂きたいと思っています。

また、青木平では初めてのチャレンジとなりますが『子供と楽しく遊ぶ日』を創設し、子供を持つみなさんと企画し区の新たな行事になればとも考えています。

私たち一人ひとりが今すぐできること！



行動の大原則

義務ではない・無理は禁物
楽しむこと！
楽しさを見つけること！

『一人ひとりが今すぐできること』として、何点か説明いたしましたが、行動、活動の大原則は「楽しむこと」にあります。

義務感で行う取り組み、活動は決して長続きしません。

『一人ひとりが今すぐにできる』ことを楽しみながら実践できたらと考えています。

10年、20年後をイメージした長期プラン

◆ 若い世代の入居促進（県内・県外を問わず）

【青木平の強み】

- ① 洒落た一戸建て中古住宅を持つことができる。
- ② 豊かな自然に囲まれ、富士山を望む美しい景観
- ③ 子供の成長に欠かせない「保育園」が身近にある
- ④ 東京まで2時間、東名高速ICが近くにある

若い世代が『青木平に住んでみたい！』と感じる
居住環境を維持、向上させることが重要

◆ 自治会活動を維持し、継続できる環境作り

組織があることで活動が生まれ、現状が維持されている。
この基本原則を忘れない。個人では何もできない。

青木平区

25/37

『一人ひとりが今すぐにできる』について説明しましたが、自治会としての長期プランが合わせて必要となります。

青木平の高齢化および人口減少に対し、どのような対策を立てるのが重要課題の一つとなります。

この課題克服の対策は、『若い世代の入居促進』です。

青木平の強みを整理し、日本全国に情報発信し、青木平の存在を知ってもらう事にあります。

青木平の強みは、資料に示した4点で、若い世代に『青木平に住んでみたい！』と感じてもらう環境を維持、向上させる事にあります。

そのためにも、自治会組織の維持、強化は欠かせません。

自治会という組織が存在し、活動していることで現在の青木平の環境が維持されている事を忘れてはなりません。

個人では、何もできないのです。

自治会が取り組むべき長期課題(1)

【人口減少対策】

多くの入居者(転入者)を青木平に迎えるために！

青木平を広く知ってもらう取り組み

◆ インターネットを活用し、「青木平HP」を作成
青木平の良さをアピール情報として全国発信

- ① 全国に「青木平の美しい景観」を紹介
- ② 中古物件の紹介（不動産屋紹介）
- ③ 自治会の取り組み紹介など



特に定年退職を迎えた方々のスキルと知識
を発揮して頂ける活動の創出

青木平区

26/37

では具体的にどのような手段で、日本全国に青木平の情報を発信するのか？

インターネットを活用した『青木平区自治会ホームページ』を作成し、全国に青木平の景観の素晴らしさ、小さな店の紹介、そして、洒落た一戸建て中古住宅物件の紹介と、富士宮市への移住、定住補助金制度の紹介などを情報発信することにしました。

また、このホームページは記事の更新や、青木平の行事などを紹介する編集員を募集し、区内外に向けた広報活動を計画しています。

このような活動を通して、コミュニケーションの輪が広がることを期待しています。

幸い、青木平にはホームページ作成のプロが居ますので、スマホで表示できるホームページの作成をお願いしました。



この資料は、青木平区自治会ホームページです。

スマホに『aokidaira.com』とインプットするか、「青木平区自治会ホームページ」とインプットし、検索いただければ、見るができます。

また、富士宮市の企画情報戦略課の地域政策推進室のみなさまの協力を頂き『稲子』、『猪之頭』地区と同じフォームに『青木平区自治会ホームページ』のリンクを張らせてもらうこととなりました。

自治会が取り組むべき長期課題(2)

【高齢化対策】

青木平の中で高齢者の**孤立化**を防止し、
一人暮らしの高齢者の**孤独死**を防止する。

一声、声かけ行動の推進

- ・各班単位で行う。班会議を通じて「見守り意識」を高める
- ・日頃から挨拶、会話、回覧物持参の際の声かけなど
- ・新聞、郵便物の溜まり具合、普段とは違う、異常の察知など

『手伝って！助けて！』と言える
ともに支え合う風土作り！

青木平区

28/37

青木平区の最重要課題の一つが高齢者の孤立化の防止で有り、孤独死をいかに防止するかにあります。

一声、声かけ行動の推進を図ると同時に、「手伝って！助けて！」と言える、共に支え合う風土作りです。

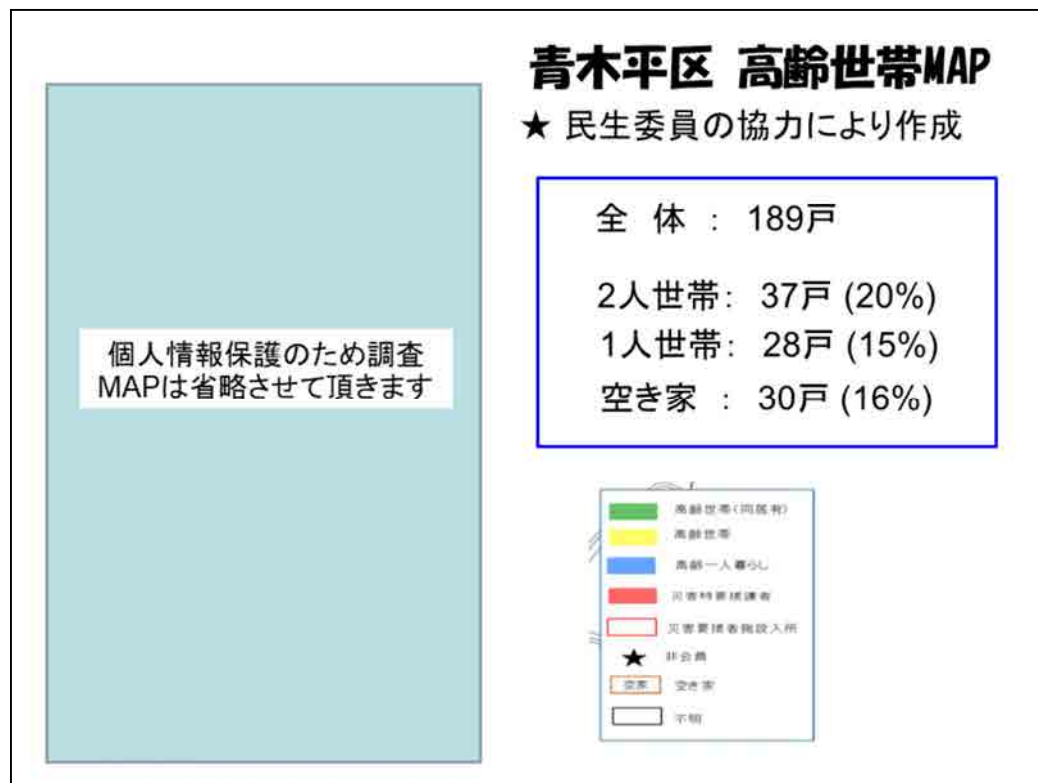
そのためにも、高齢者への見守り活動として、民生委員と共に、町内会長、区長が訪問活動に同行する取組を始めました。

年3～4回の頻度で、民生委員に同行し、高齢者が何に困っているのか？について生の声を聞くようにしました。

青木平は坂が多い住宅地です。生活道路を結ぶ階段も数多くあります。この同行訪問で気が付いた事は、100段階段と言われる階段の利用率が非常に高いことが判りました。

バスを利用するため、この100段階段を利用せざるを得ないということでした。

しかし、この階段には手すりが無いことから、安全対策の一環として、道路課にお願いし、今年中には手すりを設置してもらえる事となりました。



また、民生委員の協力により、高齢者世帯マップを作成してみました。

1人暮らしの高齢者世帯の数や、高齢者2人世帯の数を調べ、色分けしたものです。

民生委員が定期的に訪問している高齢者世帯および、訪問が必要ない元気な高齢者世帯の数は、189軒にのぼります。

その189軒の内、一人住まいの世帯は28軒、高齢者二人住まいの世帯は37軒
空き家は既に30軒あることが判りました。

一人世帯や二人世帯は将来空き家となる可能性があるのです。その数は、現在空き家となっている30軒と合わせると95軒となってしまいます。

20年後には104人の人口減少が予測されるのと同時に、100軒近い数の空き家が生まれる可能性が見えてきました。

自治会が取り組むべき長期課題(3)

【高齢化に向けた自治会運営の改革】

高齢により持ち回りの役が負担となり、退会者が増える。

地域弱者に対する支援、保護も自治会の大きな役割。

- **議論を通して規約を改正し、高齢弱者が区に残れる制度、運営にしていけることも重要課題の一つ**

◆ 自治会加入のメリットは？（負担感のみが蔓延）

富士宮市の行政機関として自治会組織、活動に対する新たな施策を自治会と連携し、共に考えてもらう。

旧態たる行政の取り組みでは自治会組織の維持は困難。

- **企業の社内人材育成の場として、地域貢献度を評価『自治会活動協力者』に対する報奨制度の検討要請など**

青木平区

30/37

自治会として頭を抱えている問題は、本来、地域弱者と言われる高齢者の退会が増えていることにあります。

『役の持ち回り』に対する負担や、班に迷惑を掛けたくない思いから退会するケースも目立っています。

自治会として守らなくてはならない高齢者が区に残れるような制度の変更も大切とは思いますが、肝心の班員そのものの包容力が大きく影響しているように思われます。

『役回りを変わってやる』気持ちと、高齢者が多く、役の周りが速くなり不公平と感じる思いが交錯しているようにも感じられます。

自治会加入そのものが負担に感じ、加入のメリットを見いだせないでいる方も増えていることも事実です。

仕事を持つ中で社会貢献や地域貢献活動を地道に行っても、企業内では全く評価されることはありません。

中学校ですら、社会貢献、地域貢献としてのボランティア活動は内申書のへの評価として反映されています。

高齢化や人口減少が進行する中、富士宮市内の企業であれば、企業市民として更なる地域貢献を果たしていく社会的な役割の一端を担う時期にさしかかってきているものと考えます。

例) こんなサークル作ってみませんか？

1) 青木平版 シルバー人材サークル

庭木の剪定作業（植木が好きな方）安価で剪定請負人



2) 買い物ヘルパー クラブ



会員制のクラブ 会員からの買い物依頼を受け、お買だし



3) パソコン研究サークル



青木平在住者による出張パソコン講習 インターネットでお買い物ができる。

4) 青木平コミュニティ新聞クラブ



年に数回 青木平の身近な情報を発信していく。新聞作りを楽しむ会

5) 青木平 野鳥研究会



青木平に来る野鳥を観察 写真や鳴き声について区内で発表・講演

6) 盆踊り研究サークル

ダイエット エクササイズに最適。
宮踊りにも挑戦 町に出て踊ろう

青木平区

31/37

青木平では、他の地域と比べると人と人とのつながりが薄いと感じられます

自治会主体の行事だけでは、人と人とのコミュニケーションの輪は広がりません。

サークル作りを呼びかけ、かつ今年度の自治会方針として掲げました。

補助金制度をルール化し、人の輪作りにチャレンジしています。

現在 活動しているボランティア サークル・クラブ

- 1) グラウンド・ゴルフクラブ
- 2) 健康体操サークル
- 3) 寄り合い処
- 4) 草刈りサークル
- 5) スロー・トレーニング (今年新結成)
- 6) バトミントン同好会 (今年新結成)
- 7) ダイエット・エクササイズ／盆踊り (今年新結成)



**あなたの知識やスキル、
経験を地域に生かしてみませんか！**



富士宮市とスクラムを組んで 自治会組織の活性化



青木平区

高齢化や人口減少などの大きな課題には、自治会だけの力では前進できません。

富士宮市と、自治会組織がスクラムを組んで取り組んで行くことが極めて大切であると考えています。

高齢化に向けた自治会組織改革は必須

現状、仕事と自治会役員（区長・町内会長）の両立は困難

1. 労働環境の変化

一昔前(20年前)までは、55歳定年

1994年の改正で60歳未満定年制が禁止（1998年施行）
これが60歳定年の始まり

定年年齢の引き上げ ⇒ **今や65歳は当たり前**
70歳定年もあり得る

企業**75%**が**65歳**まで、**70歳**は**22%**

（毎日新聞 2017年10月28日）

若手（40・50代）が、仕事と自治会活動が両立できる環境作り

2. 自治会役員は単なるボランティア活動ではない

- ① 行政の末端組織としての役割を担い区の代表者として行政から取り扱われている
- ② 区長の同意、承認等が必要となる行政書類が多数

自治会活動支援協力事業所優遇制度の検討

将来を見据え、自治会活動の中心的役割を担う役職者に対する活動を支援する制度の検討が必要な時期と考える。

- 企業の社内人材育成の場として、**地域貢献度を評価する制度の制定**

『自治会活動支援協力事業所優遇制度の検討』

自治会活動に協力する事業所等を応援する**市税の特例に関する条例**等の制定など

- ・ 事業所に対し、『自治会活動協力者』に対する評価・報奨制度の導入検討を要請
- ・ 就業時間中の会議出席を可能とし、賃金補償制度の検討を要請（事業所と市で折半とするなど）

青木平区

35/37

ここに示した行政課題を進める大前提は、富士宮市役所が率先して制度改革を進めることが重要です。

市の職員は日々、住民サービスを業務とし仕事をしているわけです。住民サービスは仕事であり、当たり前のことです。

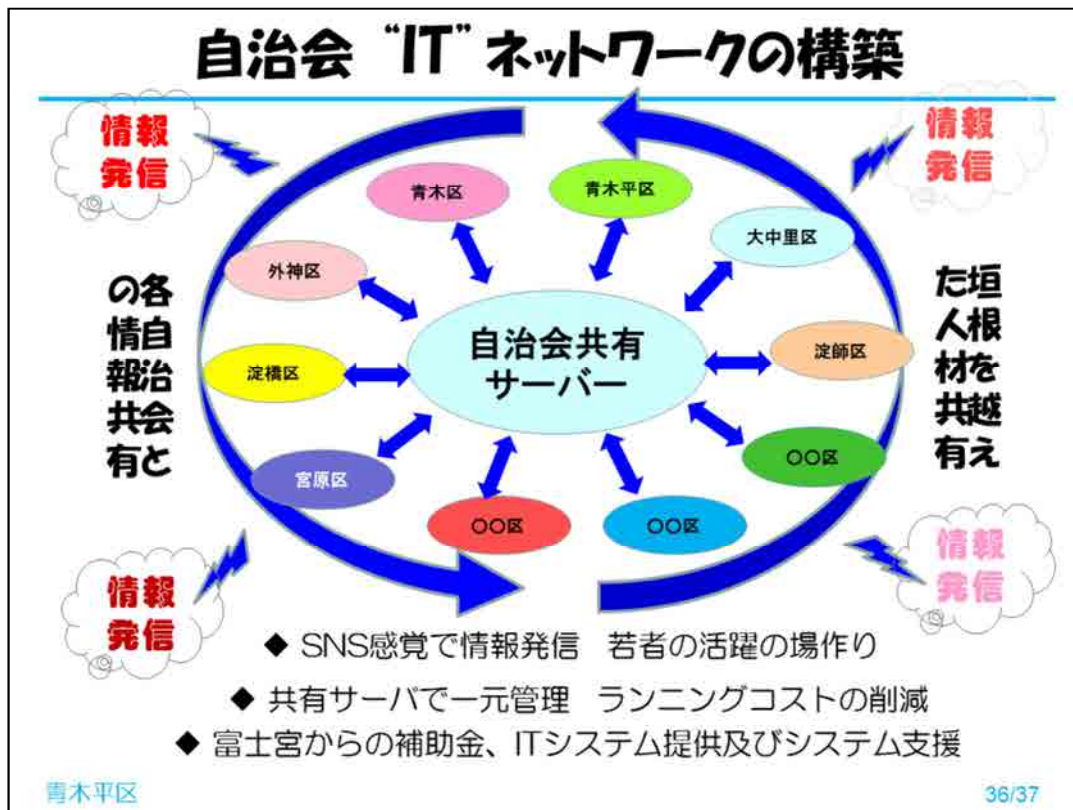
だけど仕事から離れ一人の地域住民として地域活動に積極的に関わり、地域貢献を実践している方も多数いることも事実です。

このような、仕事を離れ、かつ地域貢献をされている方を評価する制度を富士宮市自らが導入することで富士宮市の企業に対し規範を示すことができるものと考えます。

高齢化が進む中で地域貢献や社会奉仕はますます重要な課題となってきます
そして、人の意識に最も影響を与えるものは教育です。

地域貢献、社会奉仕に対する教育は学校だけのものではありません。企業内社員教育の重要な要素にもなりえると考えます。

企業の力を借り、人材育成を目的とした社員教育の項目に地域貢献、社会奉仕の教育を盛り込んで頂くことで新たな展開が開けるかもしれません。



自治会ITネットワークを構築し、自治会同士が連携し、情報発信できるインフラ整備が必要と考えています。

情報発信のインフラ整備が進めば、富士宮市の良さを更にアピールできる情報発信網が形成されることになります。

富士宮市の良さは、観光名所だけではなく、地域に暮らす人々の輪や、生活環境など、地区単位でその良さを全国発信する事ができるようになります。

また、これらのインフラを使いこなす若手の活躍の場を提供する事にもなります。年配者と若手が力を合わせ、従来にない自治会活動が展開できるかもしれません。

いまや地方は都会から人を呼び込む「人取り合戦」の時代となっています。

きっと地方から都会へ発信する情報量の差によってその結果が左右されると信じて疑いません。

今や情報の時代です。 富士宮市の魅力や良さを最大限アピールし、更に活気ある富士宮市にしていきたいと思います。

最後に いますぐ成すべきこと！

**富士宮市と自治会代表者、事業者による
将来を見据え、長期的な視点で話し合う
『自治会あり方検討会』が必要では・？**



青木平区

37/37

そして、最後に 結びとして 今すぐなすべき事は

『富士宮市と自治会代表者、事業者による将来を見据え、長期的な視点で話あう
『自治会あり方検討会』の開催が必要と考えます。

ご検討の程、よろしくお願い致します。

以上

ご静聴ありがとうございました。